

小野さん、お元気ですか。

1年後に、日本縦断が迫ってきました。

以前、田布施の家に伺った時には、遠い遠い先の話でしたが。

年末年始の九州縦断、お盆の東北縦断の2回の試走会を経験すると、本当に走るんだと思えるようになりました。

「ウルトラは経験」とよく小野さんに言われました。

最初はとんでもない事が、経験すると体になじんでゆきます。

小野さんに最初に電話した時のこと、覚えていますか。

「萩往還の走りたいんです」

「そうか、走ったらいい」

フルマラソンを2回走っただけの、今から思えば完璧な初心者。

山口に入ってからが大変だった。

周りの不思議な会話から聞こえてくる。

旅館の用意は無く、寝ないで夜通し走る。5キロ毎のエイドはない。飲料水は自分で確保する。道路に白線は無く地図を見て走る。地道の山道、峠道がある。

スタートするまでに呆れ返る時間は無く、周りのランナーに聞きまくる。

とんでもない大会に来たようだが、周りのランナーは当然のようにしている。

飲料水確保のため、ペットボトルのまだ出てない時代なので、それに替わる酢のボトルを買う。中身の酢を全部出して、あの鼻にくる臭いを取るのに、何回も何回も水道水で洗う。大会まで準備はしてきたつもりなのだが、今までの準備は何だったのだろうか。

そんな初心者が、九州縦断の試走会を走り、東北縦断を走った。

東北縦断では、準備は出来たのだろうか、ふと感じた。

小野さんは、萩往還のコースを決めるのに軽トラックを2台使い潰したそうだ。

私は大会の地図を作るのに指の豆を潰したくらいで、ひょっとして肝心な準備は何も出来ていず、とんでもない事になるかもしれない。

まだまだ初心者が経験ありません。全員、日本縦断は初めてです。

この世に生まれて、走れる時代に生まれ、走り旅が始まった時に出会えた。

そして、皆と一緒に、美しい日本の北から南まで走れる機会に巡り合えた。

こんな嬉しいことはありません。奇跡に近い巡り合わせです。

小野さん、「日本縦断、走ります」

みなさん、「日本縦断、走りましょう」